コラム ㉚

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

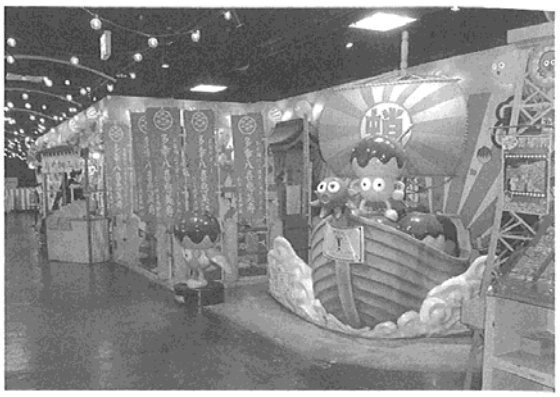
## たこ焼きミュージアム

今回のテーマは大阪の話ではありません。東京，それもお台場の話です。デックス東京ビーチ４階，昭和レトロを演出した空間の一角にたこ焼きミュージアムがあります。お台場とたこ焼き，筆者の頭の中では？？？です。

都市を創るとき，対照的な二つの考え方があります。一つはル・コルビジェの「近代都市」。きちんと区画が区切られ，ガラス張りのビルと，直線の道路で街が構成されます。もう一つは，ジェイコブスの考え方。意図的に通路を曲げ，人の出会いを増やします。

これを意識すると，多摩ニュータウンや千里ニュータウンは「近代都市」型。神田や鶴橋は明らかにジェイコブス型（設計されたというより，出来上がったというべきでしょうか）。ジェイコブス型の都市では，おばちゃんがたこ焼き屋を開業できますが，近代都市ではおばちゃんが開業することはできない（生活者のミニ起業が難しい）という「偏見？」を，筆者はもっています。つまり，筆者の偏見によれば，お台場にたこ焼き屋さんがあるはずがないのです。

しかるに，たこ焼きミュージアム。それも「元祖 本家 会津屋」さん（会津屋さんは，ラジオ焼きといわれた時代のたこ焼き屋さん。醤油味の懐かしい味）や，たこ焼きにワインをかけて焼く「くくる」さん，「芋蛸」さんなど，個性のあるお店が並んでいます。現代都市であるお台場の一角だけは，大阪庶民の夏祭りのような空間になっています。



▲お台場たこ焼きミュージアム内の「たこ焼き神社」

ミュージアムでたこ焼きをほおばりながら，考えました。人事制度をつくるとき，われわれは「近代都市」のような制度を設計しがちです。説明を聞けば合理的ですが，現実の多様さに対応ができないという弱点をもちます。これに対して，現場での運用に着目して制度を考えるアプローチは，現実の多様さには対応できるものの，シンプルな説明が行いにくい弱点があります。二つの矛盾を統合する第三の道として，お台場たこ焼きミュージアムのような制度づくりを行えば，多様さを包摂する単純さが，実現できるかもしれません。外から見れば近代都市的，内部空間はジェイコブス的。「たこ焼きミュージアム的人事制度」，新たな道を見つけた気持ちがします。

（MBO 実践支援センター代表）